

登録コード:MH640200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	小児科学【理作20M以降】 Pediatrics		
担当教員	中山 佳子 田中 佐千恵・西澤 公美・川田 悠介		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻・作業療法学専攻/2年 後期 月曜・2時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科241講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	発育・発達過程にある小児の特性を理解し、小児期に特有な疾患の基本的知識を学び、小児のリハビリテーションに活用することができる。
	MH25カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・理学		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	発育・発達過程にある小児の特性を理解し、小児期に特有な疾患の基本的知識を学び、小児のリハビリテーションに活用することができる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
	全学横断特別教育プログラム		
授業概要	小児の正常な成長・発達を理解した上で、小児期に特有な主に精神運動発達障害をきたす疾患について学びます。本授業は、1年次で学んだ「発達と教育」、「人間発達学」、「遺伝と病気」の知識を前提とし、2年次の「発達障害評価学実習」「発達障害作業治療学I」（作業療法学専攻）と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、3年次の「小児系の理学療法」（理学療法学専攻）、「発達障害作業治療学II」（作業療法学専攻）、ならびに4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。本授業は、担当教員の医療機関における小児科医、理学療法士、作業療法士の実務経験を活かして講義を行います。本授業は男女共同参画に関連する内容が含まれます。		
授業計画	第1回(9月28日)乳児の正常運動発達と乳幼児健診（中山） 第2回(10月5日)新生児から思春期の発育、発達、生理機能の変化（中山） 第3回(10月14日水曜日)脳性麻痺の病態、合併症、早期診断とリハビリテーションの視点（中山） 第4回(10月19日)小児期の運動発達障害の鑑別診断（中山） 第5回(10月26日)小児の神経・筋疾患による精神運動発達遅延（中山） 第6回(11月2日)染色体異常と遺伝性疾患（中山） 第7回(11月9日)発達特性のある小児への対応 （ゲスト講師：信州大学医学部子どもの心の発達医学教室 新美妙美先生） 第8回(11月16日)発達障害（西澤） 第9回(11月26日木曜日)知的障害（田中） 第10回(11月30日)先天性疾患、新生児マスキングと中枢神経障害（中山） 第11回(12月7日)新生児の疾患と中枢神経障害（中山） 第12回(12月14日)小児の排便・排尿障害（中山） 第13回(12月21日)小児のCPR演習（中山・川田） 第14回(1月4日)小児の感染症と予防接種（中山） ＜1月6日レポート提出＞ 第15回(1月18日)小児の感染症と食中毒、授業アンケートの実施（中山） 第16回(1月25日)期末試験		
授業の進め方	スライドと配布資料を用いて講義を行います。教材ビデオを利用します。		
テキスト、教材、参考書	テキストの指定はありません。 参考書： 標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）「小児科学」第6版（編集 前垣義弘／小倉加恵子）医学書院 Crosslink basic リハビリテーションテキスト「小児科学」（編集 根津淳夫／横山美佐子）メディカルビュー社		
成績評価の方法	レポートと期末試験の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。 総合的評価の配分はレポート30%、期末試験70%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。 レポートは、小児期に発症しリハビリテーションを必要とする疾患に対する、理学療法士・作業療法士としての関わりについて探究します。 期末試験は、各教員が担当授業の内容に基づき出題します。小児期に発症し理学・作業療法が必要になる疾患の病態生理、小児の感染症等の小児期に特有な疾患とその治療などについての理解度を確認します。		
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、下記の通りとします。		

成績評価の基準	90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可、60点未満：不可 【レポートの評価基準】 以下の6項目を5段階で評価し、30点を満点とします。 (i) 問題の設定が適切か、(ii) その問題の背景を説明できているか、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できているか、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できているか、(v) その上で自分の見解を提示できているか、(vi) レポートの書き方が適切であるか。 【最終評価】 最終評価の採点基準は、自身で能動的に学習した詳細な解答内容であれば「卓越している（秀）」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある（優）」、十分な解答内容であれば「やや上にある（良）」、授業で説明した範囲における最低限の解答内容であれば「水準にある（可）」と判定します。
事前事後学習の内容	事前学習：次回の講義資料を配布し、予習しておくべき箇所を指定します。 事後学習：毎回授業の始めに前回の授業の要点について質問をしますので、準備して授業に臨んでください。レポートで事後学習と能動的な学習を行います。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	小児の定型の発育発達を踏まえ、疾病を有する子どもの特徴をしっかりと学んでください。 質問への対応： 中山佳子：ynaka@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡）保健学科中校舎4階 中山佳子研究室 西澤公美：hitnishi@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡）保健学科南校舎4階 西澤公美研究室 田中佐千恵：sachifuk@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡）保健学科南校舎2階 助手・助教研究室（作業） 川田悠介：yskawada@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡）保健学科中校舎3階 助手・助教研究室（看護）